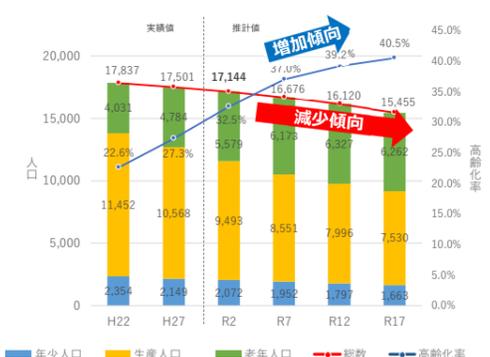


1. 人口動向からみた課題

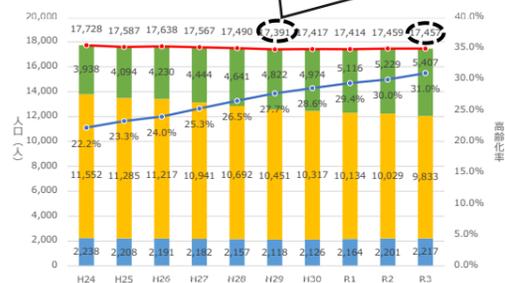
国勢調査ベースの人口動向



※出典元：(実績値) 国勢調査、(推計値) 国立社会保障・人口問題研究所

住民基本台帳の人口動向

平成 29 年以降横ばいに推移している



※出典元：住民基本台帳

高齢者夫婦世帯増減率の佐賀県・近隣市との比較 (平成 22 年～平成 27 年)

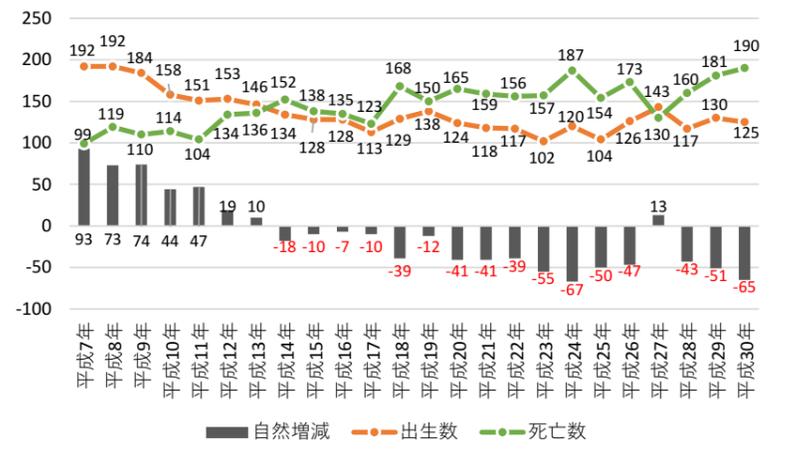
順位	市町名	増減率
1	基山町	129.9%
2	筑紫野市	128.3%
3	鳥栖市	127.7%
4	小郡市	117.9%
5	佐賀県	116.4%

高齢者単身世帯増減率の佐賀県・近隣市との比較 (平成 22 年～平成 27 年)

順位	市町名	増減率
1	基山町	138.5%
2	筑紫野市	133.4%
3	鳥栖市	130.2%
4	小郡市	126.8%
5	佐賀県	120.7%

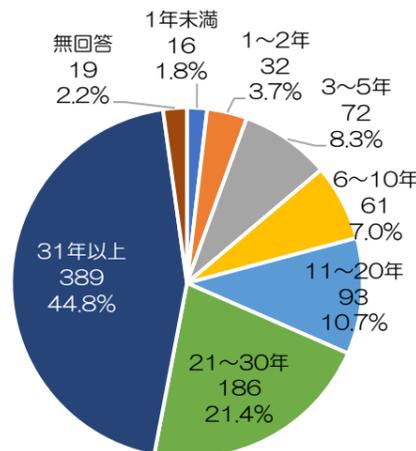
※出典元：国勢調査

自然増減の推移



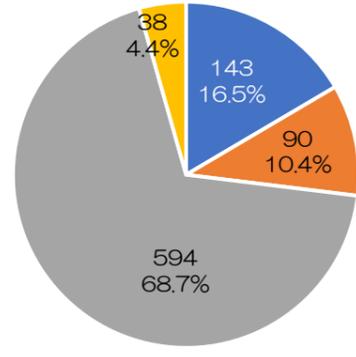
※出典元：厚生労働省「人口動態統計調査」、佐賀県「人口動態統計」

基山町の居住年数



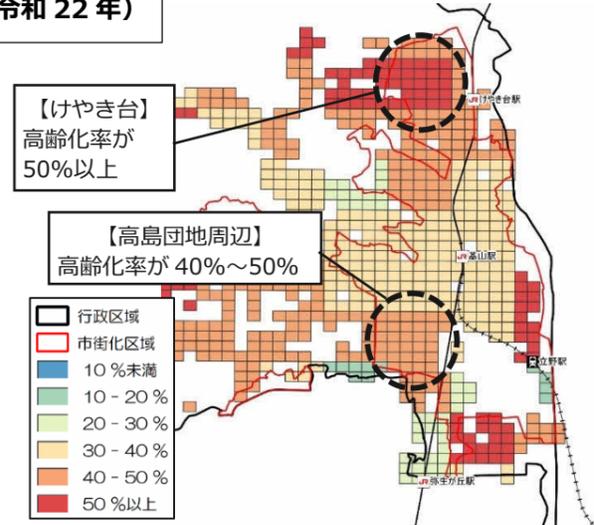
※出典元：町民アンケート

基山町に住んでいる経緯



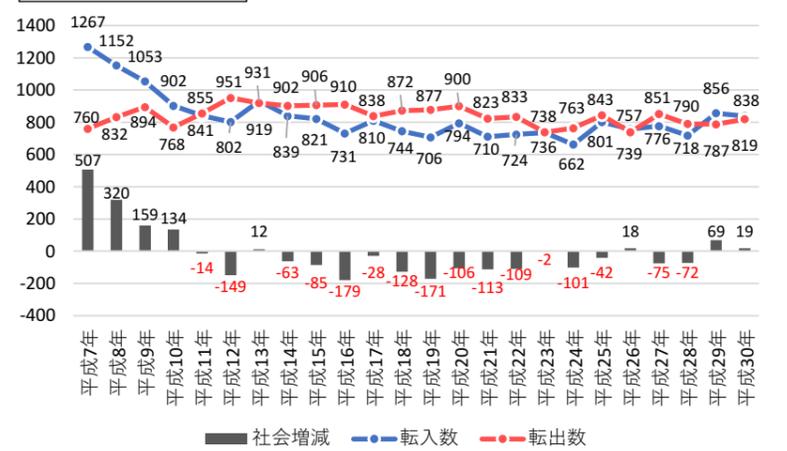
※出典元：町民アンケート

高齢化率 (令和 22 年)



※出典元：国立社会保障・人口問題研究所推計

社会増減の推移



※出典元：佐賀県「人口動態統計」

【便利な場所への移住定住促進により、より住みたくなる環境形成が必要】

- ・国立社会保障・人口問題研究所が算出した人口推計（平成 27 年国勢調査時点）では、将来的に人口が減少する見込みとなっている一方で、平成 28 年より移住定住施策に重点を置いた結果、ここ数年の実績（住民基本台帳）では平成 29 年以降横ばいに推移しています。
- ・アンケート結果を見ると、回答者の 7 割近くが他市町で生まれ、基山町に移住してきているほか、10 年以上という長い期間居住されている方も非常に多く、移住した方が長く住んでいることは基山町の大きな特徴と言えます。
- ・その一方で、移住者の呼び込みを行うために無秩序に市街地を拡大すると、既存市街地の低密度化や空洞化が懸念されます。
- ・そのため、鉄道駅周辺などの利便性の高い箇所への人口誘導を図ることによって、将来的にも移住先として選ばれる環境形成が望まれます。

【増加する高齢者が安心して暮らせるまちづくりが必要】

- ・基山町の高齢者夫婦世帯や高齢者単身世帯の増加率を見ると、周辺市よりも高い値で推移しており、将来的に高齢化がさらに進行することからこの傾向はより進むものと想定されます。
- ・エリアごとの将来的な高齢化率を見ると、高島団地周辺では高齢化率が 40~50%、けやき台では 50%以上と特に高くなる見込みであることから、増加する高齢者が安心して暮らせるまちづくりを行うことが必要です。

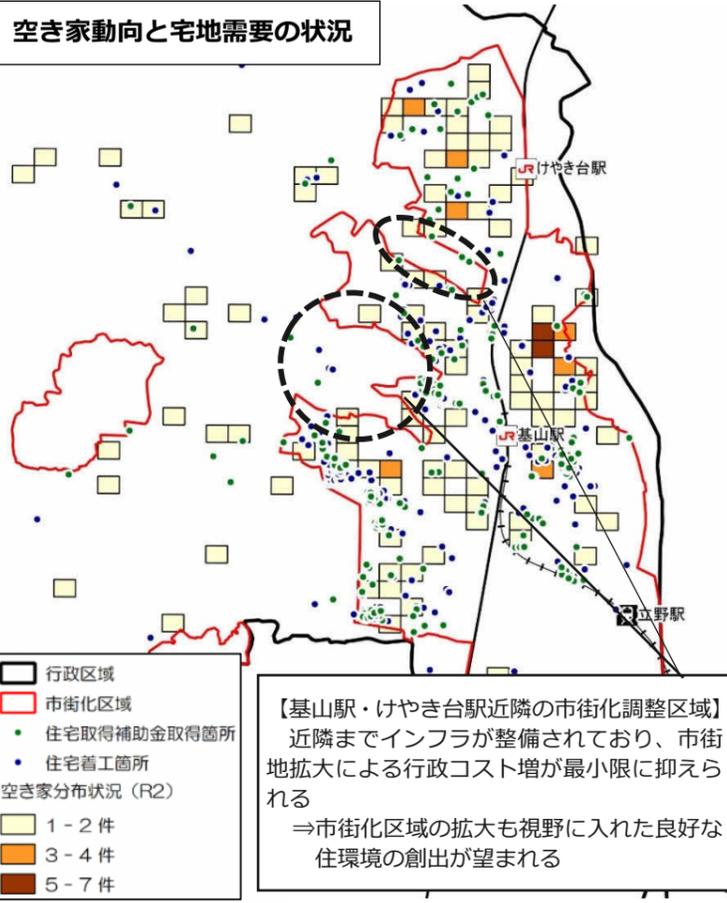
【安心して子どもを産み育てられる環境づくりが必要】

【進学・就職後も住み続けたい魅力づくりが必要】

- ・町内の自然増減の状況を見ると、毎年概ね 50 人前後の自然減が発生しています。
- ・社会増減の状況を見ると、平成 29 年以降は転入数が転出数を上回っており、転入者の半数以上が若者・子育て世代となっています。
- ・その一方で、出生率は全国や佐賀県全体の平均値と比較して低く、若い世代の転出も多いため、将来的に子どもの数は減少していく見込みです。
- ・そのため、安心して子どもを産み育てられ、進学・就職後も住み続けたい魅力作りが必要です。

2. 土地利用状況から見た課題

空き家動向と宅地需要の状況



【基山駅・けやき台駅近隣の市街化調整区域】  
 近隣までインフラが整備されており、市街地拡大による行政コスト増が最小限に抑えられる  
 ⇒市街化区域の拡大も視野に入れた良好な住環境の創出が望まれる

※出典元：都市計画基礎調査、基山町資料

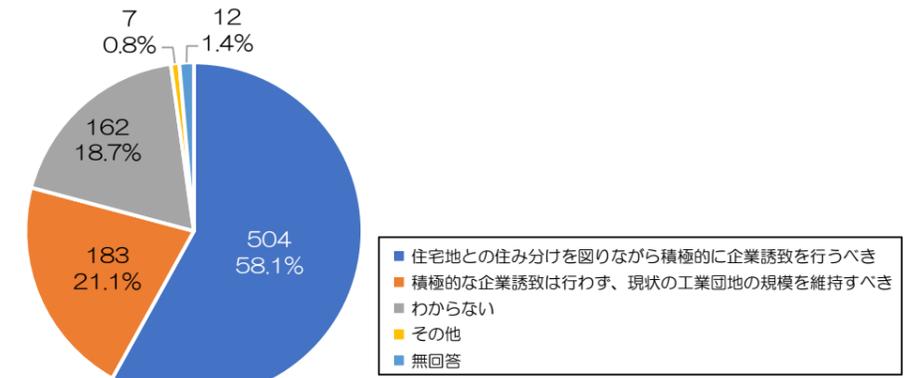
【利便性の高い箇所への移住定住促進を目的とした都市基盤整備が望まれる】

- ・市内の空き家件数は年々増加していますが、これらの多くはそのまま利活用が可能であり、空き家が発生したとしても住宅取得がされている状況です。
- ・住宅着工や宅地取得については市街地外縁部でされている一方で、中心市街地である基山駅周辺は宅地開発が可能な低未利用地や住宅の流通が少ないことから、住宅着工や取得があまりされていません。
- ・基山駅やけやき台駅から 1km 圏内を見ると、都市的な土地利用を抑制する市街化調整区域が指定されている箇所があり、住宅開発の需要があるものの宅地の整備ができません。
- ・そのため、公共交通利便性の高いこれらの箇所において、住宅の立地について検討し、利便性の高い箇所への居住を誘導することが望まれます。

【子どもを連れて遊ぶことができる公園整備が必要】

- ・市内においては、小規模な児童公園が各所に整備されていますが、アンケート調査においては、「子どもを連れて遊ぶ公園が欲しい」といった意見が目立ちました。
- ・公園の機能向上は良好な子育てを行うにあたっての重要な施設であり、子育て世代の移住定住の促進につながることから、公園整備を通じて子育てしやすい環境整備が望まれます。

工業環境整備の方向性について



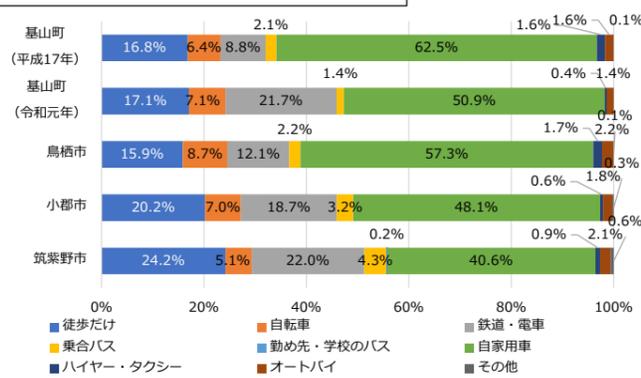
※出典元：町民アンケート

【既存工場の維持、新規工場の誘致による雇用の場の維持、拡大が必要】

- ・市内には基山グリーンパークなど多くの工業団地が立地しています。
- ・アンケート調査においても、「住宅地と住み分けを図りながら積極的に企業誘致を行うべき」といった意見が全体の 6 割近くを占めています。
- ・九州自動車道鳥栖インターチェンジの近隣エリアにおいては、既存工場の維持や新たな工場の誘致によって、雇用の場の維持、拡大が望まれます。

3. 公共交通の利便性・持続可能性から見た課題

基山町・近隣市町の交通分担率



※出典元：第 4 回、第 5 回北部九州圏パーソントリップ調査 (近隣市町は令和元年時点)

【公共交通利便性の高い箇所への人口誘導が必要】

- ・基山町および周辺市町の利用交通手段の割合を見ると、公共交通の利便性や拠点となる箇所の都市機能の集積度が高い自治体ほど自家用車の利用割合が低くなっています。
- ・通勤や通学の動向を見ると、JR 鹿児島本線の利便性が高いことから、基山町から町外に通勤・通学している人が多い一方で、町外から基山町に通勤・通学している人も多い状況です。
- ・その一方で基山駅周辺は将来的に低密度化が進む見込みであり、これらの箇所への人口維持によって公共交通の利便性維持を図る必要があります。

【町内主要箇所から高速基山停留所に容易にアクセスできる環境づくりが必要】

- ・九州自動車道基山パーキングエリアは九州管内を運行する高速バスの停留所 (高速基山停留所) が立地しています。高速基山停留所には九州各地にアクセスする多くの路線が停車し、片道 100 本/日以上運行しているバス路線もあります。
- ・九州管内に高速バスで容易にアクセスできる環境は基山町の特徴の一つであり、広域的な移動ができる拠点を最大限活用するためには、町内の主要拠点から高速基山停留所に容易にアクセスできる環境づくりが望まれます。

【町内移動を目的とした公共交通の充実による高齢者の移動手段確保が必要】

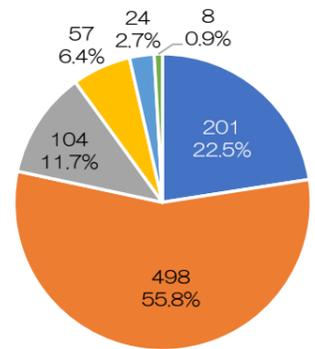
- ・町内移動を目的とした公共交通手段として、コミュニティバスがありますが、平成 30 年 4 月に実施した「コミュニティバス利用把握調査」においては、高齢者が買い物や通院といった目的で日常的に利用している傾向がありました。
- ・将来的に高齢者人口は増加する見込みであることから、将来的にコミュニティバスの需要は増加するものと想定されますが、けやき台や、高島団地周辺等において高齢化率が特に高くなることから、将来的な高齢者人口を踏まえた公共交通の充実が必要となります。

【コミュニティバスの利便性改善が必要】

- ・アンケート調査においては、「コミュニティバス路線の行先、経由地をわかりやすくしてほしい」や「一日のバス運行本数を増やしてほしい」という意見が多数寄せられたため、利便性の改善に努める必要があります。

4. 都市機能の利便性・持続可能な面から見た課題

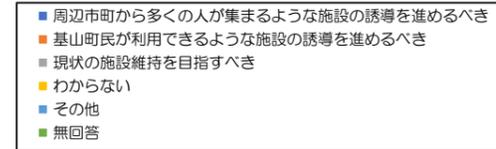
中心市街地（基山駅周辺）のあり方について



※出典元：町民アンケート

【基山駅周辺に日常生活に必要な機能の集積が必要】

- アンケート結果においては、基山町の中心市街地である基山駅周辺の魅力形成について不満とと思っている人がやや多い傾向にありました。
- 魅力形成を行うにあっても、他市町から多くの人を訪れるような施設ではなく、基山町民が日常的に利用できる施設を望んでいる意見が多数を占めています。
- このことより、日常生活に必要な機能の集積による基山駅周辺の魅力向上が望まれます。



6. 都市環境の面から見た課題

【農業の担い手確保による農業環境の維持が必要】

- アンケート結果においては、農業の担い手不足により耕作放棄地の増加が懸念されています。
- 農地環境は基山らしさを象徴する景色の一つであり、良好な住環境がありながら気軽に田園環境に触れ合えることは、移住先として選ばれるためにも重要なポイントとなります。
- そのため、農業の担い手確保を図りながら、農業環境の維持を図ることが望まれます。



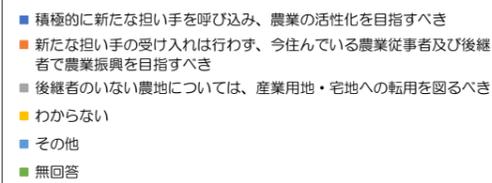
【無秩序な開発の抑制による環境保全、災害に強いまちづくりが必要】

- 基山町の西側には豊かな森林があり、河川の水質も良いことから比較的住宅地に近い箇所でもホテルを見ることができる場所があります。
- また、森林の生い茂っている箇所は土壌が木の根で固定されていることから、大雨が降った際にも土砂の流出を防止する機能が有ります。
- アンケート結果において、基山町は災害が少なく住みやすいまちであるといった意見が多数寄せられましたが、近年激甚化する災害に対応するためのまちづくりが必要となります。

【農地から産業用地・宅地への転用について検討が必要】

- 地域のポテンシャルを活かすために、農地から産業用地や宅地に転用する意見が多数寄せられた地域がいくつかありました。
- これらの地域においては、地域のポテンシャルや実情を踏まえた土地利用の検討が必要です。

農業環境整備の方向性について



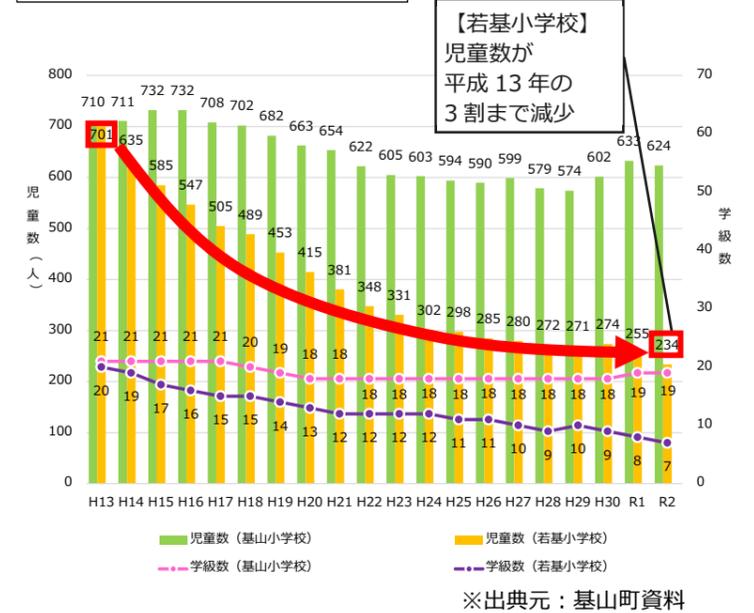
※出典元：町民アンケート

5. 都市基盤の整備状況から見た課題

【住環境基盤の整った箇所への人口集積、高齢化の進む地区への若返り促進が必要】

- 町内においては、多数の箇所でも民間開発による良好な住環境整備が行われてきましたが、住環境基盤の整っているけやき台や高島団地は将来的に高齢者が特に増加する見込みとなっています。
- けやき台が主な校区となっている若基小学校については、令和2年時点での児童数が平成13年の3割まで減少しており、町内2つの小学校の児童数に偏りが生じています。
- このことより、住環境基盤の整った箇所への人口集積を図るとともに、若者世代の居住誘導を図ることによって、高齢化の進む地区への若返り促進を図る必要があります。

小学校の児童数・学級数推移



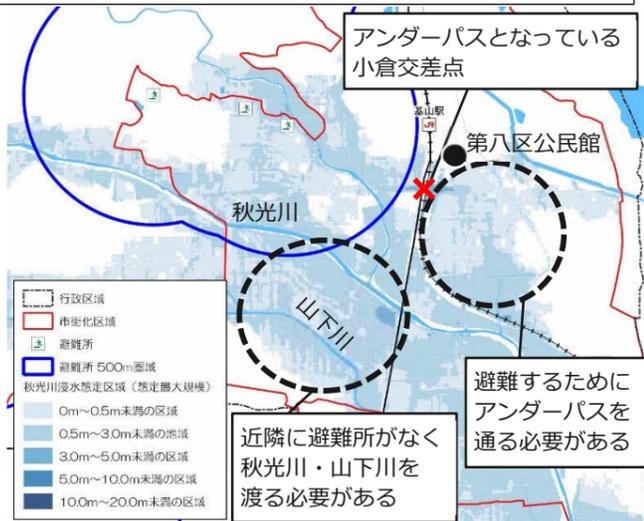
※出典元：基山町資料

【街路樹や道路の定期的な維持管理による良好な道路環境の形成が望まれる】

- アンケート結果を見ると、歩道の街路樹が育ちすぎたことにより、歩きづらくなっている、街路樹が照明を妨げている、道路が整備されたばかりで雑草が生えているといった意見が目立ちました。
- 街路樹は良好な道路環境を形成するために重要ですが、定期的な維持管理を行うことによる利用しやすい環境の形成が望まれます。

7. 防災上の安全性から見た課題

避難所の指定状況+浸水想定区域（想定最大規模）



※出典元：基山町洪水・土砂災害ハザードマップ、基山町資料

【避難所の機能向上による安全性確保が必要】

【避難情報の周知による安全性確保が必要】

- 町内において想定しうる最大規模の降雨があった際には、基山駅以南のほとんどのエリアで浸水リスクが指摘されています。
- 高島団地周辺は浸水リスクが指摘されている一方で近隣に避難所がなく、最寄りの避難所である基山小学校に向かう際には秋光川と山下川をわたる必要があります。
- 第八区公民館南側においては、最寄りの避難所である基山小学校に向かう際に最短ルートではアンダーパスとなっている小倉交差点を通る必要があるため、避難所の機能向上、避難情報の周知による安全性確保が必要となります。

※浸水想定区域については秋光川、大木川の流域で想定される最大規模の降雨による浸水被害であり、想定降水量は以下の通り  
秋光川：流域6時間総雨量が621mm 大木川（同水系の山下川を含む）：想定最大規模の降雨量624mm